



第53号

# あおもり 社会福祉士会だより



## 社会福祉士東北研修大会 (秋田大会) 参加報告



10月22日・23日に、秋田県田沢湖高原温泉郷の駒ヶ岳グランドホテルで開催された社会福祉士東北研修大会(秋田大会)には、青森県から奈良会長以下9名の会員が参加しました。

『藤里方式』が止まらない」と題した秋田県藤里町社協・菊池まゆみ氏の基調講演は、ひきこもり青年たちの支援から、その力を地域活性化にまで高めた実践の報告でした。

調査によって小さな町にも100人を超える引きこもりがいること。それも精神障がいを抱えた方よりも、都会の仕事を辞めてきたが地元でも仕事が見つからないなどで、生活につまずいている方が多かったことがわかったそうです。

ならば、「働く場を作ろう!」との思いから、食堂の立ち上げを行い、特産品の通信販売を通じて、今では地域経済の一端を支えるまでになっています。

福祉の領域だけで物事を考えないことや、何年もの時間をかけて粘り強く地域の課題解決に取り組む必要性を学びました。

その後、「地域の様々な不便を支援する取り組みについて」とのテーマのもと、各県会員による実践報告がありました。

独立型事務所の活動、被災地での地域包括支援センターの取り組み、スクールソーシャルワーク等、多様な実践報告がありました。

本県からは、羽部清隆氏(東青支部長)が、地

域から孤立しゴミ屋敷に住む単身高齢者に対する支援活動について報告しました。本人の思いや生活スタイルに寄り添いながらも、遠隔地の縁者や弁護士と連携しながら環境の改善にじっくりと取り組む内容は、社会福祉士ならではの実践でした。

さて、会場は、高原に立つ大きな観光ホテル。乳頭温泉郷にも近いためか、大浴場のお湯は乳白色で、とてもあずまし〜いものでした。

夜の懇親会場には、なまはげが登場。秋田県士会の企画により、各県の地酒の利き酒大会が行われて、大いに盛り上がりました。一部のメンバーは2次会のカラオケ、さらに福島県の会員の客室での3次会で、夜の更けるまで語り合いました。

二日目の朝6時には、早朝散歩の企画がありました。ホテル周辺の高原を歩き、凜とした空気の中、田沢湖を望むことができました。全国大会で早朝散歩を体験した秋田県会員の方が、地元でもやりたいと企画したそうです。その思いのつながりを感じました。



午前中は「地域の様々な『不便』を支援する取り組みについて語ろう!」と題し、ワールドカフェ方式で話し合いが行われました。発言内容は付箋に書いて、のちにグループごとに発表し共有しました。不便って何?不便でも不幸でなければいい

んじゃない？でも、幸せになる機会を奪われる不便はよくないね。他職種の連携で不便を解決したいね等々、様々な意見が出ました。

来年度の東北研修大会は、福島県で行われる全国大会に併せて行われます。今大会中に行われた各県会長会議では、各県 100 人ずつ福島に集まろうと話しあわれたそうです。来年は皆で福島に行きましょう！

(報告者 理事 晴山順一)

セントにさして充電をするような、パワーを充電できる時間であり、地域へ帰ったあとも頑張れる」という嬉しい言葉をいただきました。私もそうです。この会の活動をきっかけにできた縁をこれからも繋いでいきたいと強く思った一日でした。

来年度の全国大会開催地は同じ東北福島県ということで「また来年、福島県でお会いしましょう」と約束し帰ってきました。

(報告者 ユース部会長 平野絢子)

## 小さな勉強会 in 盛岡



平成 28 年 11 月 5 日(土)、ユース部会では毎年恒例の北東北 3 県の合同部会「小さな勉強会 in 盛岡～北東北若手社会福祉士交流会 2016～これからの実践に向けて、つながり、学びあおう」が開催されました。

年 1 回開催の「小さな勉強会」は、今年度 7 回目を迎え、初めての盛岡開催という記念すべき会であり、秋田県、岩手県、青森県から総勢 37 名の社会福祉士が集いました。

県を越えた連携の大切さはわかっているも具体的に何ができるのかを社会福祉士という基礎資格を持ちながらも、それぞれの地域で様々な職種に従事している皆さんと語り合い、気持ちを共有しました。

懇親会では岩手県のゆるキャラ「うにっち」が登場し会場は大いに盛り上がり、更には岩手県社会福祉士会会員による余興「さんさ踊り」が披露され、最後には参加者全員で踊るといふ、昨年青森で行われた東北研修大会を彷彿とさせる一体感と達成感を味わいました。

参加者からは「この小さな勉強会がまるでコン

## 合同公開研修の報告

主 催・下北介護支援専門員連絡協議会

共 催・青森県介護福祉士会下北ブロック・青森県社会福祉士会

テーマ「むつ下北地域包括ケアフォーラム・青森サミットがやってくる！」

日 時・平成 28 年 11 月 19 日(上)13:00-16:40

場 所・むつ市大曲コミュニティセンター

参 加・66 名(うち、社会福祉士 9 名・介護福祉士 10 名・ケアマネ 21 名・一般 25 名)



青森県内で地域活動をしている専門職中心の 3 団体と、むつ市内の住民主体の 2 団体、合わせて 5 団体から活動報告をしていただき、充実した研修となりました。

近年、住民の自助、互助、共助による地域づくりの推進が言われるようになっていますが、日々の業務に追われる専門職が住民活動の実際に触れる機会はなかなかありません。その機会を提供することができたのではないかと考えます。

また、研修の開催に当たり、主催・共催の 3 団体で会議を重ねました。専門職の少ない、むつ下北では、「多職種連携」する重要性は他圏域より

も高いと感じています。会議を通じて、他の専門職とのつながりも生まれ、新しい活動の展望も開けてきました。

社会的な支援を必要とする人のみならず、すべての住民の権利擁護のため、微力ながら、今後も公開研修等で地域に貢献していこう、と決意を新たにしています。

(報告者 理事 納谷むつみ)

## 第24回社会福祉士会 全国大会愛媛大会報告

平成28年7月2日・3日の2日間にわたり、愛媛県松山市のひめぎんホールで「『生きる』を支える～社会福祉士の可能性～」をテーマに、第24回社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会開催が開催されました。

講演で、厚生労働省社会・援護局社会福祉専門官の添田正揮氏は、平成27年9月に発表された「新福祉ビジョン」を取り上げ、その柱の一つである「新しい福祉サービスの提供体制を担う人材の育成・確保」においては、「新たな地域包括支援システムの構築」を担うコーディネート人材として、社会福祉士に対する期待が高まっていること。また、社会福祉士自らが、高齢、障害、児童等の福祉サービスを総合的に提供できる存在であることを、厚生労働省をはじめとした関係機関・団体に発信していく必要があることを強調しました。

続く基調講演では、前厚生労働事務次官の村木厚子氏が、「共に生きる社会を創る」をテーマに、刑事事件で逮捕された瞬間、「人はある日突然に、支えてもらわなければならない立場になるんだ」と実感したことを題材に、家族の支え、プロ（弁護士）の支えの二つの重要性について話されました。また、社会福祉関連施策の動向について解説された後、JKビジネスや子どもの貧困に付け入る業者に、日本の福祉制度や支援は「負けた」と明言し、この「勝負」に勝つためには、地域の支援を厚くしていくこと、それは社会福祉士の仕事

であり、よい社会づくりを一緒に進めていきたい、と結びました。

### 【来年は福島へ行こう】

来年度は、6月3日・4日に福島県郡山市「ビッグパレットふくしま」で、第25回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会（福島大会）が開催されます（例年より1月早いのでお間違えなく…）。会場の「ビッグパレットふくしま」は、東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所の事故の際に約3,000人の方が避難した場所でもあります。

福島大会のテーマは、「『障壁をこえて』～共に歩む社会福祉士～」です。震災から5年が経過し、復興が進む中、まだ多くの支援を必要とする方がいます。ソーシャルワーカーとして、福島の「今」を見て、感じて、共に語らう機会になることを願っています。東北六県では、宮城、秋田、岩手に続き4番目の開催となります。全国各地からお越しいただく参加者のため、東北六県で福島大会を盛り立てていきましょう。青森県社会福祉士会では、より多くの若い会員が全国の仲間と交流が持てるよう、交通費の助成を検討しています。

(報告者 事務局長 最上和幸)



(全国大会ひめぎんホールの前で本県会員と)

大会会場には、蛇口からミカンジュースが出るサーバーが設置されていた！この先、青森大会を開催する時には、蛇口からリンゴジュース出さねばなるまいか（ずっと先の話だけど…）

## 【会 員 数 情 報】

平成 28 年 11 月 30 日現在  
会員数 609 名  
入会率 36.42% (全国 1 位)



### < 寄付金情報 >

平成 26 年 10 月～平成 27 年 1 月迄  
・件数 72 件  
・金額 1,328,223 円

ご支援いただきありがとうございます。

### < 事務局から >

#### ●本会のホームページが新しくなりました。

新しいホームページアドレスは、

<http://www.aacsw.or.jp/> です。

会員専用ページも開設でき、会員の皆さまには、より充実した内容をお届けできることになりました。

会員専用ページへのアクセス方法は、同封しているお知らせをご覧ください。

#### ●メールアドレスの登録をお願いします。

会員の皆さまへのお知らせや支部内での情報交換等を積極的に進めるため、メールアドレスの登録をお願いしています。

まだ、登録がお済みでない方は、事務局あてメールでお知らせください。

●住所、職場等の変更のある方は手続きをお願いいたします。ご不明の点は事務局へお問い合わせください。

●1面タイトルに「カキツバタ」の絵を入れました。本会創立 20 周年を記念し、「会の花」として制定したものです。花ことばは「幸せは必ずくる」。本会の理念にピッタリですね。

#### ●年末年始について

県民福祉プラザの休館日に伴い、事務局も休みとなります。建物に入ることが出来ませんのでご注意ください。

年末年始休館日：平成 28 年 12 月 29 日 (金)  
～平成 29 年 1 月 3 日 (火)

【編輯後記】今年「たより」を発行できました。今後は、ホームページとメール配信に力を入れ、よりタイムリーな情報をお届けしたいと思います。この「たより」も年 1 回は発行いたします。(M上)

### あおもり社会福祉士会だより

発行日 2016 年 11 月 30 日

発行人 奈良 秀 夫

編 集 青森県社会福祉士会事務局

#### 公益社団法人青森県社会福祉士会

〒030-0822

青森市中央 3 丁目 20-30 県民福祉プラザ内

TEL 017-723-2560

FAX 017-752-6877

<http://www.aacsw.or.jp/>

E-mail aacsw@nifty.com

## 働きながら学ぶ

## 西野学園で社会福祉士を目指します。

北海道新幹線利用で函館市での受講が可能となりました。

### 充実のサポート体制で、社会人の資格取得をバックアップ！

<サポート1> 働きながらも学びやすい、5月入学&1年10ヶ月の学習

<サポート2> 面接授業や国家試験対策講座は、函館市や札幌市などで開講

<サポート3> 入学金免除、教育訓練給付制度指定講座(支給条件あり)

★第 28 回社会福祉士国家試験 本課程合格率 43.8% ※全国平均 26.2%

●修業年限：1 年 10 ヶ月 (平成 29 年 5 月入学～平成 31 年 2 月卒業)

●出願期間：平成 29 年 4 月 12 日 (水) 消印有効

願書請求・お問合せ：札幌医学技術福祉歯科専門学校 社会福祉士通信課程

住所：札幌市中央区南 5 条西 11 丁目 1289-5 電話：011-513-2111

**西野学園** で検索ください。

<姉妹校> 函館臨床福祉専門学校/札幌心療福祉専門学校/札幌リハビリテーション専門学校